

世界に誇れる夢のある街に

●定住・移住の促進

- 神戸暮らし体験事業「LIVE LOVE KOBE」の拡充、暮らしの 프로모ーション
- 農村定住起業計画の策定支援（農家レストラン、体験民宿等の立地促進）、農村空家を活用した里づくり拠点の整備
- 耕作放棄地・休耕地等の復元支援

●都心・三宮の再整備



「えきまち空間」イメージ

アーハンビコック（東遊園地）

- 都心の「道路空間リデザイン」の推進（三宮中央通りパークレット設置社会実験など）、新神戸駅連絡通路デザインの改修
- 東遊園地のグラウンド全面芝生化実証実験、中央区庁舎のあり方検討、三宮周辺地区の公共施設最適化に向けた検討
- 新バスターミナルの整備調査、加納町3丁目交差点における通過交通の円滑な処理に向けた道路整備の調査

●計画的開発団地のリノベーション、地域の活性化に向けたまちづくり

- ポートアイランド、六甲アイランドにおける取り組み、名谷南セ

ンターのリニューアル、鶴甲・渦森会館の再整備、中層住宅の再生等若年世帯の呼び込み（高倉台・多聞台・有野台）、民間活力を導入した市営住宅の建替え

●神戸医療産業都市の推進

- ヘルスケア分野（休養・栄養・運動）の事業化支援スキームの構築
- 各クラスターの連携を強化する新たな推進体制の構築、連携交流拠点の整備に向けた検討
- ポスト「京」設置に伴う設備整備の支援、（仮称）神戸アイセンター整備支援、G7保健大臣会合を契機とした国内外への成果の発信

●水素スマートシティ神戸構想の推進

- 海上輸送した液化水素を揚荷・供給する実証事業実施に向けた施設整備（神戸空港島北東部）
- 商用水素ステーションの整備支援（上限：50百万円/箇所）、地元中小企業の水素産業への参入促進

●神戸開港150年記念事業、ウォーターフロント地区の魅力向上

- 客船誘致の強化（入港映像の街頭放映、クイーン・エリザベスの日本発着クルーズの特別歓迎など）
- （仮称）ポートセンターの整備、メリケンパークの再整備

本物の市政改革をすすめる新しい地方自治がはじまる街に

●マイナンバーの活用による市民サービスの向上

- 引越しや出生などに伴う複数の届出・申請手続を1箇所で行える区総合窓口の設置準備
- 個人番号カードを利用した交付サービスの実施



区総合窓口設置準備

ワンストップ手続で市民負担を軽減

相談窓口との分担による市民サービス充実

効率的で質の高い市民サービス

●区市税務部門等の新長田駅南地区への移転・集約、区市中小企業支援拠点・海外ビジネス展開の支援窓口の集約化・ワンストップ化、区市就労相談窓口の一本化



区役所コンシェルジュの配置

「今日はどうなるか？ 御用件でしょうか？」

●区役所来庁者等の利便性の向上、区市連携による行政施設のワンストップ化

- 区役所コンシェルジュの全区配置、住民記録事務センターの機能拡充、総合コールセンターの機能拡充
- 西区庁舎の西神地域への建替移転に向けた検討・基本計画の策定、兵庫区役所・北区役所の整備促進、老朽化が進む市役所2・3号館のあり方検討

●人材育成の強化と組織力の向上

- 民間企業等への職員派遣の拡大、民間人材の登用、フィラデルフィア市への職員派遣
- 育児短時間勤務制度・在宅勤務制度の拡大、配偶者同行休業制度の導入

●事務事業の見直し・削減効果 52項目（27年度：29項目）、16億円（27年度：12億円）

KOBE 上昇気流

あなたとともに、神戸を新しいステージへ

みなさまの日頃のご支援、ご協力に対しまして心から厚くお礼申し上げます。

神戸は、これまで市民のみならずととも阪神・淡路大震災からの復興の歩みを着実に進め、昨年度は、災害援護資金貸付金の償還免除や新長田駅南再開地区への区市関係機関の共同移転の合意など、残された課題に対して大きな一歩を踏み出すことができました。

一方で、ポスト震災20年の神戸のまちのあり様を考えるうえでは、少子超高齢化の中で人口減少社会をいかに克服していくかが喫緊の政策課題となります。

神戸が「選ばれるまち」として持続的に発展していくためには、都市の総合力を高める施策をバランスよく、スピーディーに展開することが何よりも重要になります。

平成28年度予算は、「新しいステージの神戸創造予算」として、これまでの取り組みをさらに発展・深化させながら、全ての世代が活躍できるまちづくりをめざし、子育て・教育環境施策の重点化、高齢者福祉・障害者福祉の充実、貧困の連鎖防止、空家・空地対策など市民の安全・安心の確保、都心三宮をはじめ地域の特徴や資源を活かしたバランスのとれた都市空間づくり、成長産業分野での新しい発想・手法による新事業展開、革新的企業・創業支援の仕組みづくり、マイナンバーの活用や区市協調による市民サービスの向上、などの観点から、必要と考えられる新規施策を数多く盛り込みました。

これからも「輝ける未来創造都市」の実現に向けて、全力で取り組んでまいりますので、一層のご支援をよろしく願っています。



神戸市長 久元 喜造



お知らせ 平成27年度収支決算について

平成27年度（1月1日から12月31日まで）の収支決算状況は、以下のとおりです。

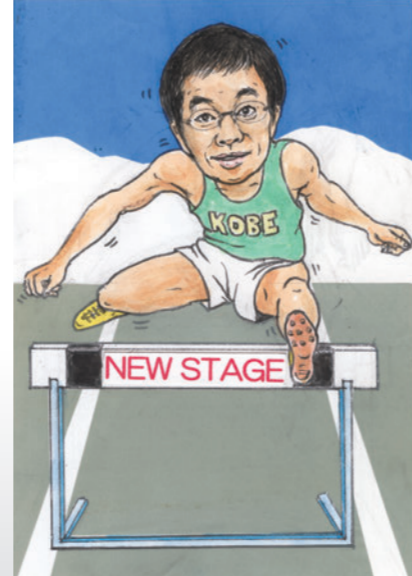
収入合計は、6,889万円でした。主な内訳は、前年度からの繰越金2,963万円、寄附金805万円、「神戸市長久元きぞうと語る会」などの会費3,120万円などです。

支出合計は、3,530万円でした。主な内訳は、事務

局職員の人件費、事務所費1,255万円、機関紙やメールマガジンの発行事業費141万円、「語る会」などの開催事業費840万円、総会開催費など274万円、借入金の返済700万円でした。収支差額3,359万円を28年度に繰越します。

なお、借入金残高は、1,800万円となっています。

詳しくは、事務局までお問い合わせください。



久元市長に対する支援の輪を広げましょう。後援会ではあなたのご入会をお待ちしています。既に会員の方は新たに会員になっていただける方をご紹介します。

ご連絡は ① お電話で 078-222-0155 又は ② ネットで 久元きぞう 検索

輝ける未来創造都市の実現に向けて

人口減少社会の克服をめざして

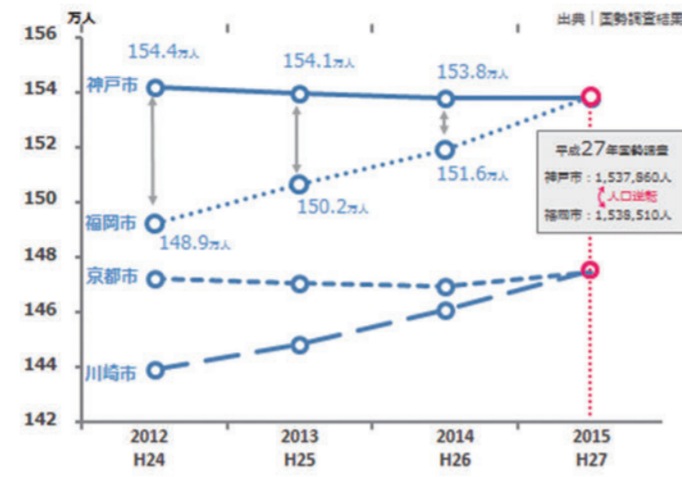
平成27年の国勢調査結果が発表されました。東京圏への人口集中が顕著で、他の都市圏では概ね人口が減少しています。神戸市は今回、国勢調査開始以来初めて減少に転じました。

人口は都市の活力の源泉であり、今後、自然動態・社会動態の両面から人口減少に歯止めをかけていく必要があります。神戸2020ビジョンや神戸創生戦略では、「若者に選ばれるまち」「誰もが活躍するまち」をテーマに、年間12,000人の出生数維持、東京圏への転出超過の解消を目標としています。

◆「神戸2020ビジョン」・「神戸創生戦略」の推進

- <テーマ> **若者に選ばれるまち + 誰もが活躍するまち**
- <全体目標>
- ▶ 年間12,000人の出生数を維持
 - ▶ 若者の神戸市への転入を増やし、東京圏への転出超過年間2,500人を解消

指定都市の人口推移 (神戸市・京都市・横浜市・川崎市)



財政健全化の進展と平成28年度予算

これまでの行財政改革の成果や市債の発行抑制などにより、負債の返済能力を示す財政健全化指標は更に改善しました。

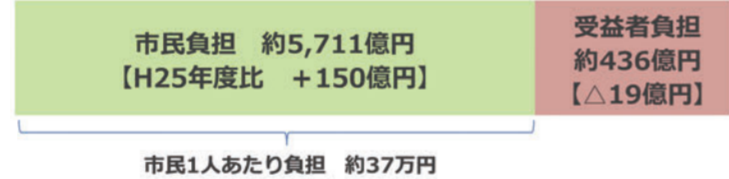
一方で、経常行政コスト(物件費・公債費・人件費を含んだフルコスト)の市民負担は増大しており、今後、少子超高齢化社会の進展により経常行政コストの更なる増高が見込まれます。

神戸が選ばれるまちとして都市の活力を維持していくためには、人口減少対策や社会保障に必要な財源確保は必須であり、未来の成長軌道につながる施策・事業の積極展開による税収の確保と、行財政改革・事務事業の見直しによる歳出構造の改革が不可欠

避になります。

平成28年度は神戸2020ビジョンの具体化や行財政改革2020の取り組みの初年度として重要な年度です。平成28年度予算では、長期金利の低下に伴う中小企業融資預託金や公債費の減少、事務事業の見直しにより約16億円を捻出し、子育て・教育環境の充実施策の重点化など、神戸のまちの総合力を高める新規施策・事業を積極的に計上することができました。

普通会計経常行政コスト(H26年度)



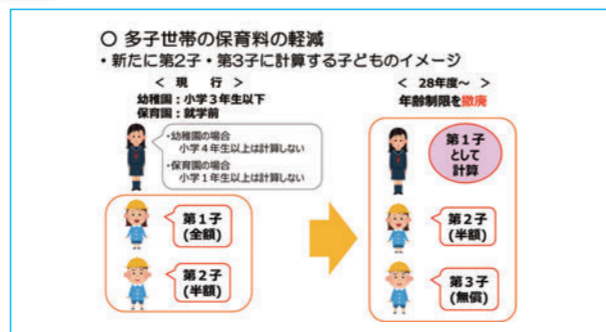
平成28年度 神戸市当初予算

	平成28年度	平成27年度	増△減
一般会計	7,273億円	7,282億円	△9億円(△0.1%)
特別会計	7,287億円	7,486億円	△199億円(△2.7%)
企業会計	3,161億円	3,308億円	△147億円(△4.4%)
合計	1兆7,721億円	1兆8,076億円	△355億円(△2.0%)

安心して子育て・教育ができる街に

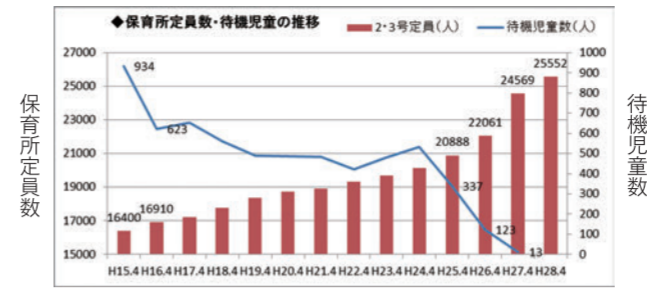
●子育て世帯の経済的負担の軽減

- 多子世帯の保育料の軽減(同時就園の年齢要件の撤廃)
- こども医療費の負担軽減⇒乳幼児等こども医療費助成(所得制限撤廃を未就学児まで拡充、外来一部負担金引下げ)、母子家庭等医療費助成(所得制限緩和、外来一部負担金引下げ)、小児慢性特定疾病医療費助成(一部負担金引下げ)



●待機児童の解消

- 保育定員 約700人分を拡大(保育定員26,262人)、保育人材確保対策



●学童保育の充実

- 全公施設で19時延長(161施設)、土曜日・長期休業日の開設時間繰上げ(8時間設)

●神戸市教育大綱の策定(7つの方針)

- ⇒学力向上、教員の資質向上、学校の組織力強化、教員の多忙化対策、学習の機会均等確保、子供たちが健やかに育つ環境整備、教育に関する科学的な調査研究

●児童生徒の学力向上・安全対策

- 学ぶ力・生きる力向上支援員を全小中学校に配置、放課後学習を拡充、学習支援ツールの全校配置
- スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置拡充
- 防犯カメラ設置拡充
- ⇒3年間(H28~30年)で全幼稚園・保育所・中学校等に設置。児童館はH28年度中に設置。全小学校は設置済

●学びの環境整備

- HAT神戸地域における小学校・特別支援学校の整備、港島小中一貫校の整備
- 御影北小学校(東灘区)、名谷小学校(垂水区)、福池小学校(東灘区)の増改築

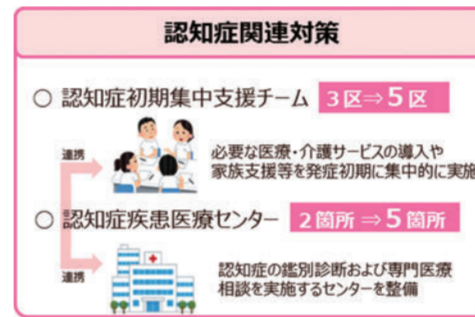
●療育体制の整備・特別支援教育の充実

- 東部療育センターの整備、こども家庭センターの体制強化
- 医療的ケアを必要とする児童・生徒への支援、通級指導教室や特別支援教育支援員の充実、こうべ学びの支援センターの相談体制の拡充

市民が地域とつながり、福祉と医療をはじめ安心してらせる街に

●高齢者福祉の推進

- 在宅医療・介護連携支援センター(仮称)の設置、「お達者健診(アンチエイジング健診)」の実施
- 認知症初期集中支援チームの配置拡充、認知症疾患医療センターの整備拡充
- 歯科口腔保健施策の推進



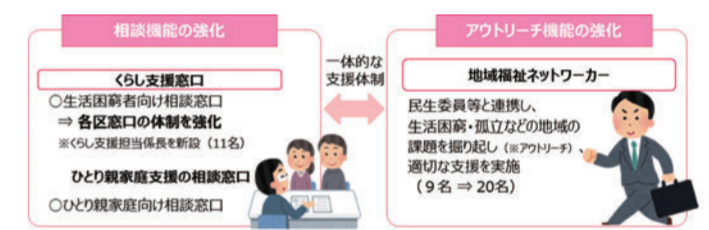
●障害者福祉の推進

- グループホームや短期入所施設の整備促進
- 自動車燃料費助成制度の創設(H28年10月~ 12,000円/年)

- 基幹福祉避難所の整備、障害福祉サービスの支給要件の緩和

●貧困の連鎖防止

- くらし支援窓口の体制強化、地域福祉ネットワークの配置拡充



- 生活困窮者等への学習支援、生活困窮者への就労支援
- ひとり親家庭の自立支援、寡婦(夫)控除のみなし適用の実施

●空家・空地、ごみ屋敷対策の推進(体制強化、新条例制定による規制の検討)

- 危機対応力の強化(防災体制の強化、土砂災害対策の強化)

市民が元気で働けるにぎわいのある街に

●地元中小企業等の新事業展開

- 中小製造業の生産革新の促進(IoTを活用した「つながる工場」のモデル実施)
- 成長分野への参入促進(航空機・水素・ロボット)

●革新的な起業・創業支援等の展開、「産学金官」の連携による起業・新事業創出支援

- スタートアップ支援体制の強化(チーフ・イノベーション・オフィサーの配置、世界トップレベルのアクセラレーションプログラムの実施等)

○世界トップレベルのアクセラレータの誘致連携

世界的なITイノベーションの中心地であるシリコンバレーで提供しているアクセラレーションプログラムの短期版(4週間)を国内初実施

- 神戸経済元気ファンドの創設(総額30億円うち市出資:2億円)

●「食都神戸2020」構想の推進

- 神戸の食の旗艦店(フラッグシップショップ)の開設支援、ファーマーズマーケットの定期開催(30回)等
- フルーツ・フラワーパーク「道の駅」の整備(H29年3月開設)
- 卸売市場の活性化

●公共交通網の整備

- 地域公共交通網形成計画の策定、神戸電鉄利用促進バス社会実験の継続実施(対象範囲を神戸高速線へ拡大)
- 自主運行バス等の取り組みの支援(田園地域:北区大沢町、八多町、市街化区域:垂水区塩屋町等)
- 市バスへのバスロケーションシステムの導入検討、バス停等へのベンチ設置推進

●芸術・文化・スポーツの振興

- 神戸開港150年記念アートプロジェクト(仮称)の開催準備、2017神戸国際フルート音楽祭(仮称)の開催準備、神戸文化ホールのあり方検討
- 東京オリンピック・パラリンピック事前合宿誘致

●神戸らしいまちなみ・景観の保全、六甲山の活性化

- 歴史的建築物の保全・活用、市保有建築物の耐震改修(御影公会堂、旧小寺家蔵舎、旧ハンター住宅等)
- 茅葺建物の保存(茅材を育成する茅場の整備)
- まやビューライン等の無料運行社会実験(夏休み 平日5日間)、六甲山遊休施設等活用調査、薪ストーブ設置補助

